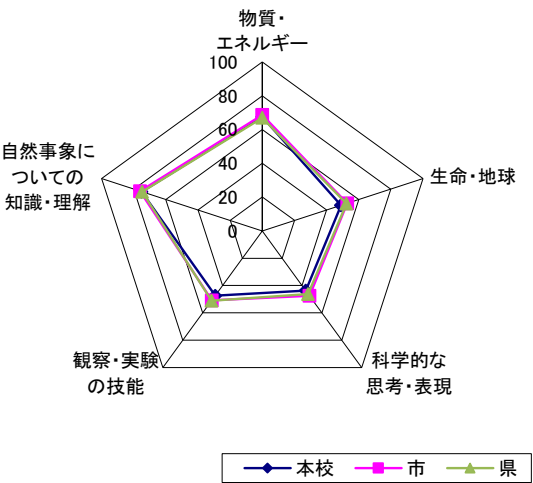


宇都宮市立富士見小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	67.5	68.6	66.9
	生命・地球	49.0	52.8	52.4
観点	科学的な思考・表現	43.8	47.4	46.2
	観察・実験の技能	47.4	50.8	51.1
	自然事象についての知識・理解	75.1	76.1	74.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○本領域の平均正答率は67.5%で、県の平均正答率を0.6ポイントとやや上回った。 ○「物と重さ」に関する正答率はすべて80%を超え、特に「物は形が変わっても重さは変わらないことが分かる」では90.8%と、県の平均正答率88.7%を2.1ポイント上回り良好である。 ●「豆電球のつき方から箱の中の回路の様子を推測する」設問の正答率は41.2%で県の平均正答率45.5%を4.3ポイント下回った。	・問題文に書いてあるイラストと実験が結びつかないことが原因の一つと考えられるので、豆電球の回路をつくる操作を十分にさせることが必要である。電気分野は、その後の学年にも影響する部分なので、確実に内容を定着させたい。 ・おもちゃづくりなどを通して、友達の作った回路などに触れる機会を十分に確保するなど、体験的な学習の充実に努める。 ・児童の学習状況等に応じて個別指導を工夫するなどして、基礎・基本を定着させていく。
生命・地球	●本領域の平均正答率は49.0%で、県の平均正答率を3.4ポイント下回った。 ○「昆虫の体のつくりと部分の名称」「昆虫の育ち方の順序」に関する設問の正答率は、それぞれ85.7%と82.4%で、ともに県の正答率を1～2ポイント程度上回った。 ●「温度計の適切な操作法」「方位磁石の操作法」に関する設問の正答率は、県を下回った。	・正しい棒温度計のはかり方を理解させるために、温度計を人数分用意して、十分操作できる時間を確保するよう努める。 ・理科の学習だけでなく、生活の様々な場面で、温度計や方位磁針に触れる機会を確保し、日常的に使えるようにしていく。 ・自分の考えを文章でまとめる機会を多く持ち、記述式の問題にも答えられる力をつけていく。 ・温度計と方位磁石の操作法の理解に課題が見られるので、再度復習する機会を設ける。